

二〇二五年一月三二日

春炬燵付箋つけつつ旅ガイド
山路いま唄となりたる落椿
人気なき大邸宅の梅ふふむ

康子

むべ

きよえ

二〇二五年一月三〇日

水仙郷大海原へなだれ咲く
白雲の羽衣めくや大枯木
カットして母に笑顔やあたたかし
己が尾にじやれつく猫や日向ぼこ

せつ子

よし女

あひる

ぼんこ

二〇二五年一月二九日

背伸びしてチャイム押す児の冬帽子
ドライブの行く手に富士や四温晴
水掛け牛乾く間のなき梅日和
苺大福床屋帰りの夫の手に
通学路見守り人めく雪だるま

よう子

澄子

なつき

あひる

愛正

二〇二五年一月二八日

着膨れてシートベルトに四苦八苦
田起こしの黒き土くれ霜の朝
縁に座す背に日の温みちやんちやんこ

こすもす

千鶴

えいいち

二〇二五年一月二七日

番鴨相合に水尾揃ひたり
冬ぬくき一日を得たり万歩計

むべ

康子

二〇二五年一月二六日

春く日金粉となる枯野かな
風花の湯饅頭店の湯気に舞ふ
間遠なる祈祷太鼓や寒の入
御手洗に千羽鶴吊る初大師

むべ

わたる

なつき

なつき

二〇二五年一月二五日

天までも耕す気概千枚田
デパ地下に女子の人垣愛のチョコ
ウォーキング寒夕焼の褪せぬ間に
児らの声弾ける広場春隣
春めくや橋桁のぼる水陽炎

みきお

もとこ

うつき

せつ子

康子

毎日句会みのる選・二〇二五年二月二日